2020年度総会報告

特定非営利活動法人　ふれあいの家－おばちゃんち
140-0001 品川区北品川2-28-19 品川宿交流館3F
Tel.&Fax.:03-3471-8610
E-mail:fureai@obachanchi.org
http://obachanchi.org/　202007発行

2020年度の定期総会は、コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年5月24日に全正会員に対して書面評決で行いました。議決権の行使にあたっては、資料の送付と電話やメールなどによるお問い合わせ＆ご説明期間を設けました。正会員40名のうち、書面による議決権行使30名、委任状提出10名、計40名の出席となり、定款第27条に定める定足数を満たしたことで総会は有効に成立しました。なお、各議案は、定款第28条2により正会員の過半数をもって可決されました。

2019年度活動経過報告

おばちゃんちの基本理念と合わせて、子どもの権利条約(国連制定 30 年、日本批准 25 年)、虐待防止・予防をも意識して 1 年間事業を行い、大きな事故なく 1 年を終えられた。各事業は自立的且つ必要に応じて連携しておこなった。若い世代の活躍も目に見え、保育事業の中では特にえくぼ事業で著しかった。新たな拠点について、地元から声をかけていただいたこともあったが、条件に合う物件とは出会えない 1年だった。ネットワークは力強く広がっている。冒険あそび場関連では、NPO 法人そとぼーよが順調に活動を進め、一部事業の再委託や協働事業を行い、荏原地域の新たな外遊び推進グループとのつながりもできた。子若ネットに参加していることで、子若事業とおばちゃんちの保育事業との接点ができたり、子若事業の中の保護者支援事業に協力することもできた。子育て広場事業のネットワークによる学びの場が充実し、困りごとの解決に役立つ場面が多くみられた。他地域や海外からの視察、大学生の実習受け入れなどが多くあり、特に冒険ひろば事業に顕著にみられた。順調で、大きな問題もなく年度末を迎えようとしていたが、新型コロナウィルス感染拡大という世界的な問題が起き、2、3 月はその対応の難しさに直面した。臨時の会議などを行い(中止もし)、スタッフの意識共有を大事にしながら、事業の継続、変更、縮小、中止と事態の進行に即して判断し実行していった。全てと人々の命を守るために、「うつさない」「うつらない」を基本に、おばちゃんちらしさを失わずにできることを行うことに努めた。

【事業】
1.既存事業の安定した運営を図ると共に、新規事業展開を視野に入れて、できることは動き始める。
1-①「できることを、できる人が、楽しく」を大切に、チームで工夫し各事業の充実をはかることができた。
1-②「求められているもの、やりたいこと」の声に耳を傾け、新規事業展開を考えできることから始めることができた。
1-③ 他団体との連携を大事にし、他団体が運営した方がよいものを見極め、発展的に譲り渡していく。特に外遊び、冒険あそび場事業推進は自ら進めると共に、NPO法人そとぼーよが社会的な信頼を得られ、力を発揮できるようにバックアップした。NPO 法人そとぼーよには、しな冒の乳幼児親子対象事業そとぼ～よを再委託した。また、そとぼーよが運営する事業にも協力をした。
1-④ 多世代交流、子育てひろばの充実を視野に入れ、品川宿おばちゃんちの再移転先として、『預かり、親子ひろば、カフェ』の三つのエリアを持てるような空き店舗探しに力を入れるため、不動産屋や地域の人に声をかけている。また印刷工場の空き店舗提供を申し出て下さった方がおられたが、条件が合わなかった。

【組織】
2.安定した運営と更なる発展を見すえて、財政的な見通しと、次世代人材育成に努めた。
2-① 各事業の次世代リーダー、スタッフの発掘、育成に努め、引き継いでいく。各事業の中で、若い人材の確保やバトンタッチを意識して行ってきた。特にえくぼ事業では、初期世代の方の引退に伴い若い人の活躍が目立った。
2-② 品川区との信頼関係　保育園入園枠の拡大、オアシスルームの増設により、子育て交流ルームでの預かり数は減ってきてはいるが、その存在意義を品川区は十分に理解してくれていることを確認した。

目次

ふれあいの家－おばちゃんち　**2020** 総会報告号 1

ふれあいの家－おばちゃんち　2020 総会報告号

2020年度総会報告

特定非営利活動法人　ふれあいの家－おばちゃんち
140-0001 品川区北品川2-28-19 品川宿交流館3F
Tel.&Fax.:03-3471-8610
E-mail:fureai@obachanchi.org
http://obachanchi.org/　202007発行

2020年度の定期総会は、コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年5月24日に全正会員に対して書面評決で行いました。議決権の行使にあたっては、資料の送付と電話やメールなどによるお問い合わせ＆ご説明期間を設けました。正会員40名のうち、書面による議決権行使30名、委任状提出10名、計40名の出席となり、定款第27条に定める定足数を満たしたことで総会は有効に成立しました。なお、各議案は、定款第28条2により正会員の過半数をもって可決されました。

2019年度活動経過報告

おばちゃんちの基本理念と合わせて、子どもの権利条約(国連制定 30 年、日本批准 25 年)、虐待防止・予防をも意識して 1 年間事業を行い、大きな事故なく 1 年を終えられた。各事業は自立的且つ必要に応じて連携しておこなった。若い世代の活躍も目に見え、保育事業の中では特にえくぼ事業で著しかった。新たな拠点について、地元から声をかけていただいたこともあったが、条件に合う物件とは出会えない 1年だった。ネットワークは力強く広がっている。冒険あそび場関連では、NPO 法人そとぼーよが順調に活動を進め、一部事業の再委託や協働事業を行い、荏原地域の新たな外遊び推進グループとのつながりもできた。子若ネットに参加していることで、子若事業とおばちゃんちの保育事業との接点ができたり、子若事業の中の保護者支援事業に協力することもできた。子育て広場事業のネットワークによる学びの場が充実し、困りごとの解決に役立つ場面が多くみられた。他地域や海外からの視察、大学生の実習受け入れなどが多くあり、特に冒険ひろば事業に顕著にみられた。順調で、大きな問題もなく年度末を迎えようとしていたが、新型コロナウィルス感染拡大という世界的な問題が起き、2、3 月はその対応の難しさに直面した。臨時の会議などを行い(中止もし)、スタッフの意識共有を大事にしながら、事業の継続、変更、縮小、中止と事態の進行に即して判断し実行していった。全てと人々の命を守るために、「うつさない」「うつらない」を基本に、おばちゃんちらしさを失わずにできることを行うことに努めた。

【事業】
1.既存事業の安定した運営を図ると共に、新規事業展開を視野に入れて、できることは動き始める。
1-①「できることを、できる人が、楽しく」を大切に、チームで工夫し各事業の充実をはかることができた。
1-②「求められているもの、やりたいこと」の声に耳を傾け、新規事業展開を考えできることから始めることができた。
1-③ 他団体との連携を大事にし、他団体が運営した方がよいものを見極め、発展的に譲り渡していく。特に外遊び、冒険あそび場事業推進は自ら進めると共に、NPO法人そとぼーよが社会的な信頼を得られ、力を発揮できるようにバックアップした。NPO 法人そとぼーよには、しな冒の乳幼児親子対象事業そとぼ～よを再委託した。また、そとぼーよが運営する事業にも協力をした。
1-④ 多世代交流、子育てひろばの充実を視野に入れ、品川宿おばちゃんちの再移転先として、『預かり、親子ひろば、カフェ』の三つのエリアを持てるような空き店舗探しに力を入れるため、不動産屋や地域の人に声をかけている。また印刷工場の空き店舗提供を申し出て下さった方がおられたが、条件が合わなかった。

【組織】
2.安定した運営と更なる発展を見すえて、財政的な見通しと、次世代人材育成に努めた。
2-① 各事業の次世代リーダー、スタッフの発掘、育成に努め、引き継いでいく。各事業の中で、若い人材の確保やバトンタッチを意識して行ってきた。特にえくぼ事業では、初期世代の方の引退に伴い若い人の活躍が目立った。
2-② 品川区との信頼関係　保育園入園枠の拡大、オアシスルームの増設により、子育て交流ルームでの預かり数は減ってきてはいるが、その存在意義を品川区は十分に理解してくれていることを確認した。

soukai2020 ＼

子育てメッセではさらに区との協働が進み、虐待防止講演会にはメッセ予算とは別に区の予算が付き、広報面でも大きな力になってくれた。子若事業では、運営委員会には区職員と子若ネット団体代表がともに参加し、さらに子ども若者支援、保護者支援事業の発展に向けた連携ができている。
2-③ 新規事業、新拠点のための資金を活かすまでには至っていない。
2-④ 若い世代、学生世代との出会いの機会を作り、継続した活動参加につながるように努め、冒険ひろば事業では 4 大学(立正、東京医療保健、早稲田、清泉女子)の実習生を受け入れた。また個別に知り合った学生が臨時職員として活躍している。

【ネットワーク・地域連携】
3.個人、グループ・団体、行政、企業との信頼関係に基づくネットワークと連携を活かし、さらに多角的に事業が展開できるようにする。
3-① 様々な立場年代の人が信頼関係をもって繋がり、仲間として、共に子育てにやさしいまちづくりをすすめられるように個人とグループ・団体、グループ・団体間を繋ぐコーディネーターの役割を担うことができた。
3-② おばちゃんちの活動を理解し、協働する個人・団体との関係を広め深め、各地域(北品川、中延、八潮、南大井)でのまちづくりをすすめた。新たには、昭和通りおばちゃんちの近隣にある子ども若者フリースペースの若者がクリスマス飾りをしてくれて、子どもにも若者にもよい結果があった。しな冒では地元児童センターとの連携がみられた。北浜では、利用者の保護者とのつながりで新たな事業の提案があった(コロナで閉園のため延期)。
3-③ おばちゃんちがつながるネットワーク(子ネット、子若ネット、協働ネットワーク品川、しな木ネット、 子ども食堂ネットワーク、文化活動のネットワーク(にじっこコンサート、あそびうたフェスティバル、ふれあいこどもまつり等)、児童虐待防止推進のネットワーク)を活かし、さまざまな課題を協働して解決していくことに努めると共に、より良い品川児童相談所開設に市民として努める。子若ネットワークは、一般社団法人化を行うことになり、おばちゃんちの代表理事が設立社員に参画する。児童虐待防止推進を目的とした講演会を4NPO 団体で企画した際に、品川区児童相談所開設を所管する課長との接点もでき、この意思を伝えることができた。
3-④ 品川区内での子育てひろば事業が充実していくよう、品川区とも協働し、団体ネットワークを活かして取り組む。子育てひろば事業の交流学習会を充実して開催することはできたが、品川区に対し、この事業を市民が取り組むことの意義を伝えきれず、にこにこるーむとすきっぷひろばを除き、協働(支援や助成など)するには至っていない。
3-⑤ 品川区の外遊び環境がもっとよくなるように、NPO法人そとぼーよ、他の外遊び、冒険あそび場推進団体との協働関係をさらにすすめる。第 3, 4 の冒険ひろば開設を見据えて、NPO 法人そとぼーよが荏原地域の複数の公園で 1 日プレイパーク事業を行えるようバックアップし、次年度実現することになった。また、林試の森公園は大掛かりな改修、拡張工事があるので、周辺の団体・グループと連携しながら声を上げ、都や区に伝えてきた。

【組織運営】
各事業の自立的運営と相互の連携体制の確立、引き続き努めていく。 事務作業の明確化と共に簡素化、効率化にを進めるとともに、臨時職員を入れて対処した。

【事業の実施】
(1)ふれあい広場 ＜つどい、くつろぎ、元気がでる＞
・ホットほっとHOT[独自事業]2019/9/29(日)おもちゃインストラクターさんの協力で「出張おもちゃ広場」を実施。
・みこちゃんち[独自事業]預かりの前に利用できてよかった、年齢の違う子がいることのよさを感じるなどの声があった。預かりの人数を制限し、双方が楽しみ関われた。同時進行のためには、スペース拡張の必要性も感じている。
・しょうちゃんち[独自事業] 適切な時間帯に、色々な年齢の親子が利用し話し合える場、保育士・栄養士とも気楽に話せる場になり、最後の手遊びは預かりの子とも一緒に楽しめた。いつも 5 組くらいの参加があるようにしたい。

・なんくるないさ～[独自事業] 2017 年度から「おちゃのま」の名称で中高生支援を行ってきたが、開催側の事情や参加する中高生の新級進学等により、開催回数が減少
・北浜こども冒険ひろば[品川区管理運営業務委託事業]1 ヶ月休園を考慮すれば昨年同等の利用者数だが、小学生はプレイワーカーの交代の影響もあってか減少、中高生は過去最高。新規小学生が来やすい雰囲気づくり、声掛け、環境設定等が課題。
・ しながわこども冒険ひろば[品川区管理運営業務委託事業]親子連れ、外国人など特に土日祝日は多くの利用があった。平日は、幼保園散歩,遠足と親子連れ。近隣小学生利用も増え常連も。学校を問わない異年齢の遊び、結びつきから成長の姿が見られる。
・ほっと・サロン@八潮にじっこ [品川区社会福祉協議会助成事業]スタッフ2 名体制で、外遊びもしながら開催。初めての親子、2 人以上連れの方、気になる親子にも安心できる場になっている。八潮地域他団体ともよい関係ができ、今年も八潮音楽祭に参加した。
・おうちひろばオーベルにじっこ[マンション管理組合委託事業]時間区分けを変え、世代間交流ができるようにした。管理組合の意向で 7 月終了。住人同士知り合う場としてよかった、続けて欲しいと惜しむ声も多くあり、役割は果たし、私達も気づきを得られた。
・忍者修業の旅[協働事業(礎会、品川こども劇場)]三者共催で、子どもたちがまちの面白さに出会い、まちがステキだと感じてもらいたいと取組んだ。まちの重鎮や消防団のなど、まちとのかかわりが一層深くなった。

(2)あずかり広場　＜困った時はおたがいさま＞
・子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち」ほっぺ[品川区助成事業]近隣保育園増で預かりは減ったが、緊急の預かりや 0 歳児、時間外の預かり等には臨機応変に対応できた。絵本ラック増設がよかった。入退室の仕方の工夫でスムーズになった。
・子育て交流ルーム「昭和通りおばちゃんち」わっこ[品川区助成事業]保育園開設があり預かりは減り、キャンセルもあったが、保護者の困ったには寄り添うように努めた。けがなし。利用者が紹介をしてくれ輪が広がった。すまいる、子若(Xmas 装飾)との交流も好評だった。
・派遣保育「えくぼ」[独自事業] 長年活動してきたサポーターが複数名引退、経験の浅いサポーター中心の保育が増え、保育について話し合うことが多く、個々の成長が感じられた。おかえりなさい会実施、振り返り会は中止しアンケート実施。

(3)まなびあい広場　＜みんなでいきいき、子育て、自分育て＞
・子育てサポーター養成講座 10 回 30 時間[独自事業]30,40 代が多かった受講生は出席率もよく意欲的で、交流もでき充実した場になった。公開講座も参加者が多くとても好評だった。同じ施設で会場を統一できアクセスもよく、よかった。
・「完璧な親なんていない」親支援講座(NP 講座) 7 回×1 クール[品川区管理運営委託事業]
安心して本音で話せる場にでき、回を重ねるごとに関係も成熟していった。保育も充実し、安心して預けてもらえ、保育者から話が聞けたこともよかった。申し込みが多く、お子さんの月齢の低い方はご遠慮いただいた。
・小学生保護者支援講座　未実施
・プレイパートナー養成講座[独自事業] 単発講座として開催。プレイワーカーと、そとぼーよの方に、主に乳幼児の保護者向けに話してもらった。子育て支援のスタッフの参加もあった。冒険ひろばの魅力を伝え熱心に聞いてもらえた。
・ 相談事業「えがお」 随時[一部 品川区助成事業]それぞれの現場で、随時保護者の方からの相談を受けた。予約をして相談するほどのことではないことを、気軽に相談できる人が身近にいるように努めた。ケースによって事業を越えて共有した。
・ら～ん・うぃず　随時[独自事業] 新しい活動を始めた青年からの相談があった。ニッコリータの活動のサポートする方法を考え提案した。

soukai2020 ＼＼

・広場事業担当者交流会(ひろば交流会) 年3回[独自事業]児童センター(委託館)の参加もあり、18 広場に増えた。条件が違う場同士、各現場から出る意見を聞き話し合い、学びの場になった。また情報共有、スタッフのスキルアップにもつなげることができた。

(4)つながりあい広場 ＜点から線へ、そして面へのネットワーク＞
・ ニュースレター発行他広報 [独自事業] 8 頁のニュースレターを2回発行。他に総会報告号をWEB掲載した。アクセス解析を基に広報戦略を立てている。モバイル利用率が高くなっていくことへの対応を継続。新たに、インスタグラム検討を開始した。
・ 各種ネットワーク参加
①子育て・子育ちにやさしいまちづくりネットワーク IN しながわ(子ネット) 事務局担当
7 月(サードプレイス)、11 月(今さら聞けないあんなことこんなことを聞いてお互いも自分たちも知ってみよう)開催。2 回目には、子ども育成課長が出席くださることになっていたが、急遽欠席となった。
②(一社)子ども若者応援ネットワーク品川[団体参加]運営委員会におばちゃんちとして参加。幾島個人が「おや親カフェ」のファシリテーターとして関わる。年度末に任意団体から一般社団法人となった。こちらにも幾島が理事として参画した。
③協働ネットワークしながわ [団体参加]運営委員会におばちゃんちとして参加。機関誌「品聞」作成、講座運営にも関わる。子ども・子育て分野外の区内団体との有意義な関係が作れる場になっている。
・ 品川子育てメッセ[共催:品川子育てメッセ実行委員会・品川区]第 12 回を10/18に開催。極力シンプルに行い、実行委員の負担軽減を目指した。一方、実行委員会を居場所として求める委員も多かった。区事業を 6 階にまとめたのはよかった。
・ 児童虐待防止推進事業[共催:品川子育てメッセ実行委員会・品川区／協働:ウーヴ、品川こども劇場、しながわチャイルドライン 「どの子も笑顔でいられるために」と題し、下浦氏の講演と養育家庭の方にも登壇してもらった。区との協働関係が進み、看板、広報、区の委嘱委員への周知等によって、参加者も幅広く多くなった。
・とうきょうご近所みちあそび ＜TOKYO PLAY 委託事業＞HSBC より寄付を受け、TOKYO PLAY に委託し、都内や区内で事業が展開できるようにした。TOKYO PLAY は 3 年間で自立的に事業を行うだけの力をつけ、財政的な基盤も独自に持てるようになり、今年度でこの形での事業は終了する。さらにこの事業が広がっていくのに役立つ物として、みちあそびキットの寄贈を申し出てたが、年度内には実現できず次年度に持ち越すことになった。

(5)きかくの広場 ＜智恵と工夫を持ち寄ろう＞ 特になし

(6)行政、地域、他団体とのネットワーク ＜共催・協働事業＞
・にじっこコンサート ＜にじっこコンサート実行委員会＞
6/30(日) きゅりあん大ホール 新沢としひこ・中川ひろたか・長谷川義史 コンサート
・ あそびうたフェスティバル ＜あそびうたフェスティバル実行委員会＞
2 /11(火) 荏原文化センター大ホール
・ 子ども・若者応援セミナー ＜子ども若者応援ネットワーク＞
7/21(日) 中小企業センター 西野博之さん 「居場所の力」
・ ふれあいこどもまつり ＜実行委員会＞
2/11(火) きゅりあん 舞台鑑賞・ワークショップ・あそびのひろば(運営参加)

◆ 2019年度メディア掲載 **(←おばちゃんちwebページにまとめて掲載)**

2019年度決算報告

NPOヒロバ（NPOデータベース）
東京都生活文化局NPO法人ポータルサイト法人団体情報詳細

2020年度活動方針

引き続き、児童虐待のないまちを願い、「子どもの笑顔を真ん中に、心豊かに暮らせるまちづくり」をすすめ、「あたたかな風」が品川のまちに吹き続けるよう、「できることを、できる人が、楽しく」、「ふれあい、あずかり、まなびあい、つながりあい」活動をおこなう。各部署の自立的運営と相互連携とのバランスを保ち、事業が安定して継続できるよう工夫し、組織基盤強化に努め、さらに次世代のリーダー、スタッフの発掘、育成を進める。新たな拠点づくり（品川宿おばちゃんちの再移転）を目標に、その目的や事業内容の検討、場所探し、必要に応じて他団体との連携を進めていく。他団体や地域との協働・協力の関係を活かせるように各種ネットワークに積極的に参加し、一団体ではできない事業展開をおこなう。課題解決にサポートが必要な団体、グループからの要請を受け、パートナーとなり、また新たな団体、グループ活動のサポートにも力を入れる。豊かなつながりがまちづくりに欠かせないことを自覚し、つながる、つなげる役割を担っていく。新型コロナウィルス感染拡大という状況の中で、2019 年度末から事業縮小、休止を余儀なくされてきたが、本年度の事業は、まずは感染拡大に加担することにならないことを念頭に置き、事業を縮小、休止するかどうかを見極め決断する。そして事態が長引く中で居場所が減り、預けることもできなくなり、行き詰まる子育て家庭のささやかな支えになることや、子どもにとって大切な行動が制限され冒険ひろばでも遊べずストレスを溜めている子どもへ、新たにできることを考え、できることから実行していく。大震災自然災害のみならず、今回の事態も含めて、できる支援を他の NPO と連携しながら取り組んでいく。以下重点項目について、新型コロナウィルス感染が終息するまでは、無理することなく、やがて必ず来る日常に備えることとする（重点項目の※の部分は縮小、休止する場合もある）。

【事業】
1.既存事業の安定した運営を図ると共に、新規事業展開を視野に入れて、できることは動き始める。
1-① 「できることを、できる人が、楽しく」を大切に、チームで工夫し各事業の充実をはかる。※
1-② 「求められているもの、やりたいこと」の声に耳を傾け、新規事業展開を考えできることから始める。※
1-③ 多世代交流、子育てひろばの充実を視野に入れ、品川宿おばちゃんちの再移転先として、『預かり、親子ひろば、カフェ』の三つのエリアを持てるような空き店舗探しを続ける。

【組織】
2.安定した運営と更なる発展を見すえて、財政的な見通しと、次世代人材育成に努める。
2-① 各事業の次世代リーダー、スタッフの発掘、育成に努め、引き継いでいく。
2-② 品川区との信頼関係の上に立って協働関係を深め、委託だけでなく共催事業の展開をはかる。※
2-③ 新型コロナウィルス関連で勤務時間が削減されているが、できる限りの給与補償をしていく。事業委託費、補助金が減額されないよう品川区に求める。本年度予算で不足する分が出た場合は、繰越金から充当する。

【ネットワーク・地域連携】
3.個人、グループ・団体、行政、企業との信頼関係に基づくネットワークと連携を活かし、さらに多角的に事業が展開できるようにする。※
3-① 様々な立場年代の人が信頼関係で繋がり、仲間として、共に子育てにやさしいまちづくりをすすめられるように個人とグループ・団体、グループ・団体間を繋ぐコーディネーターの役割を担う。※
3-② おばちゃんちの活動を理解し、協働する個人・団体との関係を広め深め、各地域（北品川、中延、八潮、南大井）でのまちづくりをすすめる。
3-③ おばちゃんちがつながるネットワーク（子ネット、子若ネット、協働ネット、しな木ネット、子ども食堂ネット、文化活動のネット《にじっこコンサート、あそびうたフェスティバル、ふれあいこどもまつり等》、児童虐待防止推進のネット等）を活かし、さまざまな課題を協働して解決していくことに努める。※

3-④ 品川区の外遊び環境がもっとよくなり、第 3、4 の冒険ひろばが区内西部にできるよう、NPO法人そとぼーよ、他の外遊び、冒険あそび推進団体と協働し、議会や区、区民に働きかけていく。
3-⑤ この事態の中でこそ必要なことは何かを探り、ネットワークを活かしてできることを実行していく。

【組織運営】
（1） 各事業の自立的運営と相互の連携体制の確立 引き続き努めていく。
（2） 事務局事務の明確化
事務作業の明確化と共に簡素化、効率化に努める。また、今回のような事態に備えて、在宅ワークの環境整備を進め、情報共有、WEB 会議の方法など実行可能になるよう試行する。
（3） 予算化への対応
プールされた繰越金にゆとりがあるかどうかを判断しながら、支出に対して収入の少ない事業に前年度までのプール金を当てて事業を行っていくことを可視化できるように引き続き検討していく。

【事業の実施】
※ すべての事業は、新型コロナウィルス感染拡大の状況、終息への動向をよく見た上で、縮小継続、中止、事業再開の判断をしていく。利用者、参加者、スタッフともども「うつさない」「うつらない」ためには、どうすればよいのかを基本に判断し決定していく。また、このような状況だからこそ、各事業の目的が達成できる工夫や新たな方法を模索し、おばちゃんちらしくできることは、実行していく。また、従来の事業がいつ再開できるようになってもよいように、常に備えておく。
※ 以下各事業の方針は、年度末に各現場担当者は討議し作成した総括シートからの要約転載であり、それ以降の、新型コロナウィルス感染状況の拡大、緊急事態宣言の発令、延長、今後の状況によっては、方針の変更を余儀なくされるところもある。

(1)ふれあい広場 ＜つどい、くつろぎ、元気がでる＞
・ホットほっとHOT[独自事業] 9 月 27 日(日)に、ホットほっと HOT 事業として行い、しながわ木育ネットワークの協力も得て、「出張おもちゃ広場」を実施する。遊んでも、休憩してもよい場とする。協力スタッフの声掛けをする。
・みこちゃんち[独自事業] 親子がホッとくつろげて、利用者同士の関係が広がり、悩みや重荷を少しだけおろせる場であるよう に努める。預かり保育と同時進行のため、部屋の拡張を望み、第三の場への移転を考えたい。
・しょうちゃんち[独自事業] 今までのまま続けていく。おもちゃの消毒などいい環境を心掛けていく。パンフレットを公園や児童 センターで配り、いつも 5 組くらいの参加があるように、参加親子を増やしたい。
・なんくるないさ～[独自事業] 「居場所」の意味合いや、関わる協力者への理解を深めることも含めて、いまなすべきことはなんであるのかを探っていきたい。
・北浜こども冒険ひろば [品川区管理運営業務委託事業] これまでの遊び場の雰囲気や子ども達との関係性の継続。近隣住民の生活と子どもの遊ぶ環境の保障とのバランスをとる必要性があり、この課題解決には専門家集団との連携を図る必要性がある。
・しながわこども冒険ひろば[品川区管理運営業務委託事業]マンネリとならないように「考える」ことを意識。利用者が「サービスの受け手」ではなく「利用者とともに作っていく」ひろばに。安全管理、研修の充実を図る。子ども育成課、公園課との連携、今年度から変わった公園管理会社日比谷アメニスとの信頼関係を築く。高学年向けの環境整備。
・ほっと・サロン@八潮にじっこ[品川区社会福祉協議会助成事業]運営主体をどうするか、引き続き検討。シニア世代の利用を増やし、多世代交流ができるように室内外ともよい環境なので、続けていく。イベントを増やせるかは検討。
・忍者修業の旅[協働事業]（礎会、品川こども劇場）もっとまちとかかわりを深めるイベントにしたい。春は入門、秋は小学校中学年対象のグループ参加。少人数でもさらに町の人とかかわる場面を増やし、この町の魅力を子どもたちに伝えていきたい。

(2)あずかり広場　＜困った時はおたがいさま＞
・子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち」ほっぺ [品川区助成事業]　無理なく、できるだけ楽しくの精神を変わらず、ステキなおばちゃんを目指す。利用者・子ども・スタッフが共に安心して楽しく過ごせる場所であるように、スタッフは学びあう。
・子育て交流ルーム「昭和通りおばちゃんち」わっこ [品川区助成事業] 子ども、保護者が安心して過ごせるおばちゃんちであること。働くスタッフにとって、長く働き続けられ る楽しい職場をみんなで作っていく。すまいる延山、子若フリースペースとの交流を進めていく。
・ 派遣保育「えくぼ」 [独自事業] えくぼらしい保育を意識しサポーター同士の交流、仲間意識を深める。保育について今までまとめたものを新しい人に伝える。連絡会、研修の工夫。他の事務局スタッフからも見えやすくする。

(3)まなびあい広場　＜みんなでいきいき、子育て、自分育て＞
・ 子育てサポーター養成講座 10 回 30 時間 [独自事業] 2019 を基本に新しい内容を加えていく。50 代以上の受講生が増える工夫。会場は一か所にする。参加者にも片付けなど協力をお願いする。事務担当の補佐を付ける。作業タスク表の作成。
・ 「完璧な親なんていない」親支援講座(NP 講座)　7 回×1 クール　[品川区管理運営委託事業] 春から夏にかけての開催。品川区で年に 2 回の開催を切望。
・ 小学生保護者支援講座 [独自事業]今年度はぜひ開催を目指したい。
・プレイパートナー養成講座　[独自事業]スタッフの研修とははっきり区別させて、両方を充実させる。これまでの積み重ねを確認しつつ、毎日の現場での振り返り(リフレクション)からの情報をいかし、企画運営を進めていく。
・ 相談事業「えがお」 随時　[品川区助成事業]各現場で、気軽に臨機応変に相談に応えていく。相談は個人で抱えることなく、個人情報に十分配慮しながら、本人の最善の利益のためには事業を越えても共有していく。他機関との連携も必要。
・ ら～ん・うぃず　随時 [独自事業] 団体の立ち上げ、講座や講演会開催のサポートと合わせて、課題解決にサポートが必要な団体、グループからの要請を受けパートナーとなり、新たな団体、グループ活動のサポートにも力を入れる。
・ 親子広事業担当者交流会(ひろば交流会) 年3回 [独自事業]より多くの団体が参加しやすい会場、日時の検討。現場の様子にあった内容を柔軟に決め、各現場に持ち帰れるように工夫。参加団体を増やしていきたいが、運営方法に工夫が必要。名称検討する。

(4)つながりあい広場　＜点から線へ、そして面へのネットワーク＞
・ ニュースレター発行他広報 [独自事業]NLはタイムリーな読み物記事を心掛ける。いろいろな世代に届くように、SNSで閉じてしまわないように、利用者にわかりやすい発信を。事務局内スキルアップ、データクラウド化、web 会議可能性を探る。
・ 各種ネットワーク参加
①子育て・子育ちにやさしいまちづくりネットワーク IN しながわ(子ネット)　事務局担当
品川区子ども育成課長に来ていただき、意見交換、共通認識把握、課題を考えていく場に。
「つながりあい」の重要性を感じ、各々が担っていくべきことを再度見つめなおし考える。
②(一社)子ども若者応援ネットワーク品川　団体参加
区の事業の受託団体として、一般社団法人化したが、8つの NPO 任意団体が関わっていること、品川区との協働事業であることを強みとして活かしていき、アピールもしていく。
③協働ネットワークしながわ 団体参加
子ども・子育て分野外の団体との関係を深めていく。品川区と市民が協働のパートナーであることで、よりゆたかなまちづくりが進められていくことの具現化の場として関わっていく。
④ 品川子育てメッセ　共催　品川子育てメッセ実行委員会・品川区
10月30日(金)開催予定。状況をみながら準備会議のあり方も含めて、どのような形でできるかを検討。「品川での子育て・地域とつながる」というテーマでできることはないか考える。
⑤ 児童虐待防止推進事業　共催　品川子育てメッセ実行委員会・品川区 協働　ウーヴ　品川こども劇場　しながわチャイルドライン　状況を見極め今年度できることを、区と協働し企画実施する。
⑥ とうきょうご近所みちあそび　＜TOKYO PLAY 協働＞
今後も事業が広がっていくのに役立つ物として、みちあそびキットの寄贈を実現させる。

(5)きかくの広場　＜智恵と工夫を持ち寄ろう＞
おばちゃんち内外の声をよく聞き、やるべきことでできることがあれば始めていく。

(6)行政、地域、他団体とのネットワーク
＜共催・協働事業＞
・ にじっこコンサート　＜にじっこコンサート実行委員会＞
　11 月 23 日(月)　きゅりあん大ホール　　新沢としひこ・ケロポンズ・大友剛　コンサート
　(⇒その後、中止決定となった　2020/06/25追記)
・あそびうたフェスティバル　　＜あそびうたフェスティバル実行委員会＞
　2021 年 2 月 23 日(火)　荏原文化センター大ホール
・子ども・若者応援セミナー　　＜子ども若者応援ネットワーク品川＞
　秋以降の開催を目指し検討していく。
・ ふれあいこどもまつり　＜実行委員会＞
　2021 年 2 月 11 日(木) きゅりあん　　舞台鑑賞・ワークショップ・あそびのひろば(運営参加)

2020 年度　役員体制について

理事
(1)圷祐美
(2)岩崎みつ子
(3)犬塚尚樹
(4)小栗崇資
(5)片山享子
(6)今野良子
(7)椎名裕子
(8)武田寛美
(9)土屋順子
(10)土屋美恵子
(11)宮里和則
(12)幾島博子

矢内美佐子理事は前年度を持って退任。
代表理事、副代表理事は、5月27日の理事会において互選し決定した。2020/06/25追記

・代表理事　　幾島博子
・副代表理事　　岩崎みつ子
・副代表理事　　小栗崇資

監事
(1)城後弥生
(2)八神尚美

◆事務局からのお知らせ◆
ニュースレターvol.40発行しました
＊ニュースレターのバックナンバーを公開し ています
　Puboo (電子書籍スタンド) https://puboo.jp/users/obachanchi
＊おばちゃんちの会費のお支払いやご寄付が、キャリア払いやPayPalなど
　郵便振替以外の決済方法にも対応しました
　STORES(ネットショップ) https://obachanchi.stores.jp
　(郵便振替でご不便の ない方は、いままでどおり 郵便局からご送金ください)

soukai2020 ＼＼

ふれあいの家－おばちゃんち　2020総会報告号

著　　obachanchi

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社